Book Review



噛み癖・食いしばりに注意!

-3 つのリスクから歯を守る-

鈴木 尚 著

Reviewer 皆木省吾 Shogo Minagi

(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 咬合・有床義歯補綴学分野)

A4 判変, 40 頁 定価(本体 2,800 円+税) 医歯薬出版刊



もしかして自分の口の不調は口の「力が強いからではないか」と思い始めた患者さん、先生の臨床観察から「力が強いのではないか」と思われる患者さんは、正しい情報に触れる機会を必要としている。力の影響を理解することは、歯科医師がその治療結果に責任をもつ必要があるのみでなく、患者自身もその治療結果に影響を与える因子をもっているという「現実」を相互に理解・共有するための重要な共働プロセスとして作用する。

新しい領域や概念が見出されるたびに、それを明らかにする研究取り組みやそれを応用する臨床取り組みには大きな知力が必要とされる。そしてそれが医療として根づくためには、その情報を患者に広く普及させることが重要なステップとなる。

その意味で、患者への正しい情報提供は常に重要な行為であるが、治療時の限られた時間のなかで十分に正確にかつ背景となる知識のすそ野までも解

説することは、現実には難しいものである。患者の側に『正しい情報収集の意志』があったとしても、インターネットでの清濁混沌とした情報のなかから妥当な情報を収集することは不可能に近いと、日々実感されている先生方は多いと思う。適切な情報源を診療室に置くこと、患者に薦めることは、適切な医療を形成するための重要な観点の一つであり、本書『噛み癖・食いしばりに注意!』はこれに適した本といえる。

この本は歯科治療において、あるいはもっと広く言えば口腔の健康にとって、咀嚼筋が発生させる力に注目した情報提供の書である。この力が顎口腔系に大きな影響を与えることは、多くの臨床エキスパートの優れた臨床観察が蓄積されて育まれてきたものである。これをサポートする科学的な実証データは、今まさに研究のスタートがきられたところにあるにすぎない。

たとえば、顎関節症との関連で

Tooth Contacting Habit(TCH)の概念が提唱され、その影響についてはしだいに広く知られるようになってきているが、どのような力がどのような修飾を受けて、顎関節に、補綴装置に、歯根に、あるいはそれ以外の組織に影響を及ぼしているかは、まだまだ明らかにはなっていない。ヘビーブラクサーの咬耗は「夜間ブラキシズム」によって形成されているとわれわれは「思い込んで」いたが、そうでない可能性も見え始めている。

まさに今、真摯に臨床に向き合っている臨床家の先生方、臨床研究を行っている研究者の方々の目の前のベールの向こうに、その真実の世界が広がっていることを、私自身実感している。時代は口腔の Function 解明を求めており、歯科治療は Function への適応を要求されている。本書は時節に合った一冊であるといえよう。